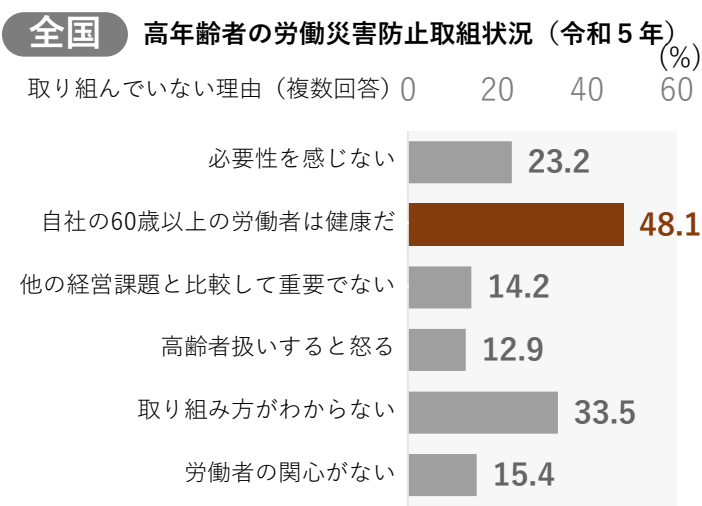
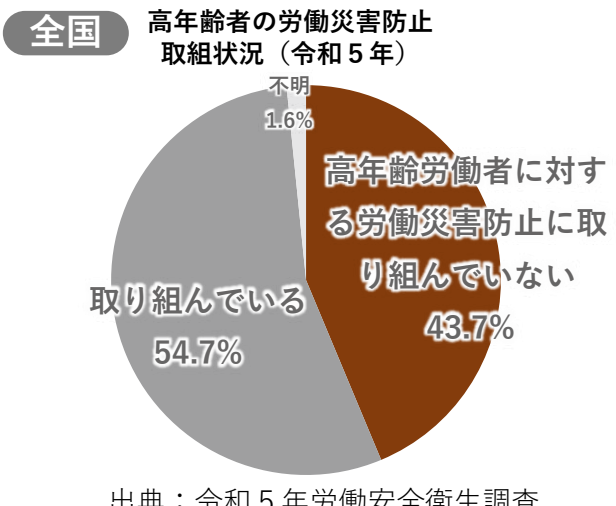


はたらく高年齢労働者の健康と安全

「自分は、我が社は大丈夫。」と思っていないか？

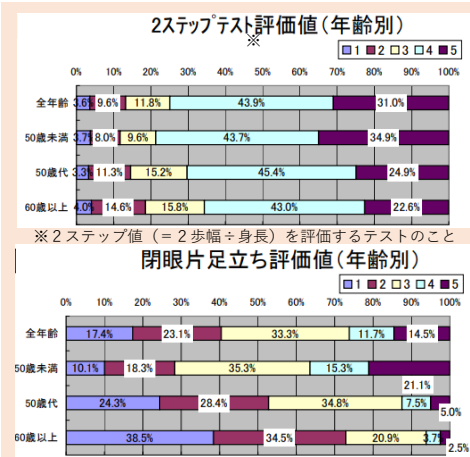
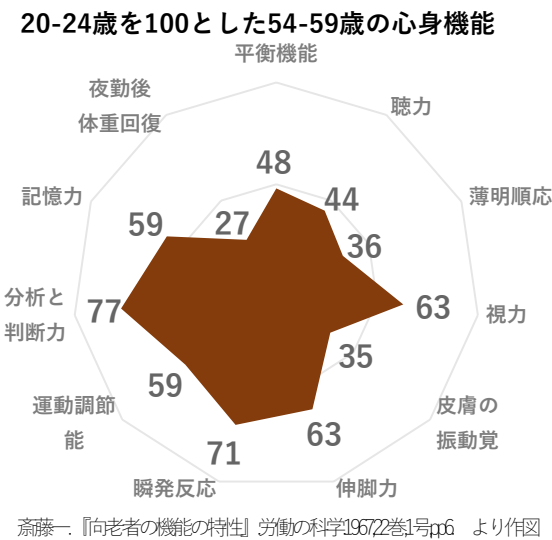
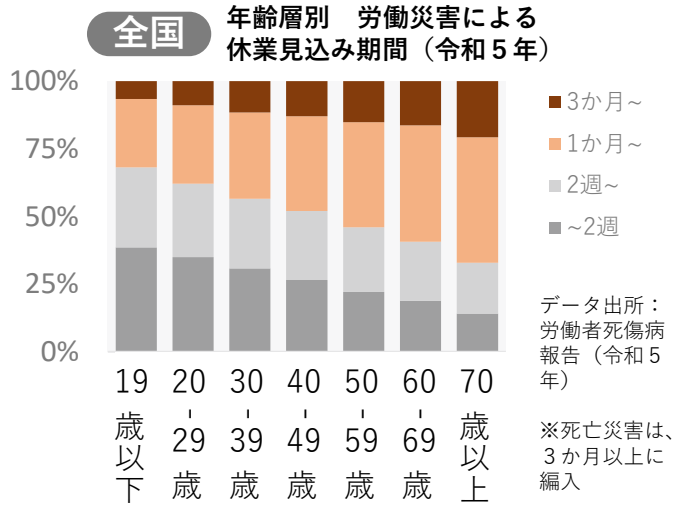
高年齢労働者への労働災害防止対策の取組が進んでいない

令和5年に厚生労働省が行った調査の結果によると、60歳以上の労働者が所属している事業場のうち、高年齢労働者に対する労働災害防止に取り組んでいないと回答した事業場の割合は43.7%に上りました。取組を行っていない事業場にその理由を尋ねたところ、「自社の60歳以上の労働者は健康だから」と回答した事業場が半数近くを占めています。



「自社の60歳以上の労働者は健康だから」は本当か？

高年齢労働者の労働災害発生率の高まりには、個人によりばらつきはあるものの、加齢とともに進む筋力やバランス能力等の身体機能の低下により、けがをしやすくなったり、けがをした時に重症化しやすくなったりするなど、労働災害リスクが高くなるためと考えられます。実際に、複数の調査で年齢が高まるほどに、身体機能が低下しているという結果が報告されていますし、年齢を重ねるほど、労働災害の休業見込み期間が長くなっていることが統計上も明らかになっています。



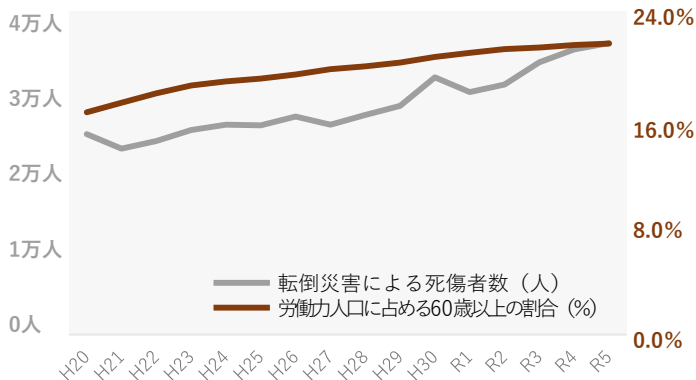
出典：中央労働災害防止協会「高年齢労働者の身体的特性の変化による災害リスク低減推進事業に係る調査研究報告書」（平成22年）

※評価1,2がハイリスク、3～5がローリスクを示す。

高齢労働者の転倒災害が減らない理由は？

全国

転倒災害による死傷者数と
労働力人口に占める60歳以上の割合

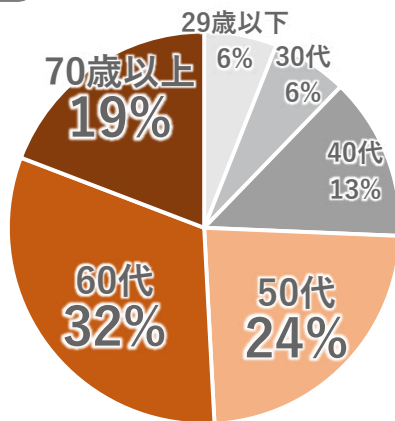


※死傷者数の出典は労働者死傷病報告

※労働力人口に占める60歳以上の割合の出典は総務省「労働力調査」

大分県

転倒災害の被災者の年代別割合 令和6年



出典：労働者死傷病報告

全国の統計を見ると転倒災害による死傷者数の増加と労働力人口に占める60歳以上の割合の増加にはかなり強い正の相関関係がみられます。

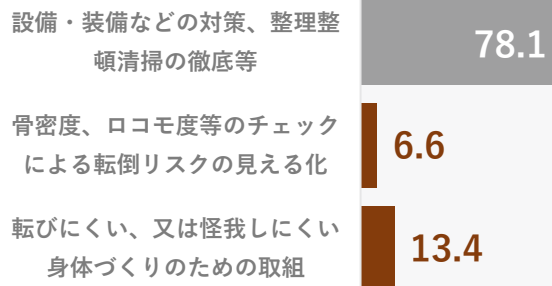
また、全国的にも大分県内においても転倒災害の被災者は高齢労働者の割合が高い状況であり、高齢労働者の労働災害発生率の上昇に、転倒災害の発生率の上昇が大きく関係していることは先ほどお示ししたとおりです。

このように高齢労働者の転倒災害が増加している最大の理由は、高齢労働者の特性に配慮した対策に取り組んでいる事業場がまだまだ少ないということに加え、転倒災害防止の取組を行っている事業場においても設備・装備の対策や整理整頓の徹底等（ハード面）の対策を行っている事業場がほとんどで、労働者の高齢化に伴う身体機能の低下（ソフト面）の対策はほとんど行われていない、ということが挙げられます。

転倒災害の半数を占めるつまづきの転倒災害は、ハード面とソフト面の両面から総合的な対策を行うことが重要です。引き続き、ハード面の対策に取り組んでいただくとともに、併せてソフト面の対策にも取り組んでいただきますようお願いいたします。

全国

労働者の転倒防止対策の取組状況 (%)



出典：令和5年労働安全衛生調査

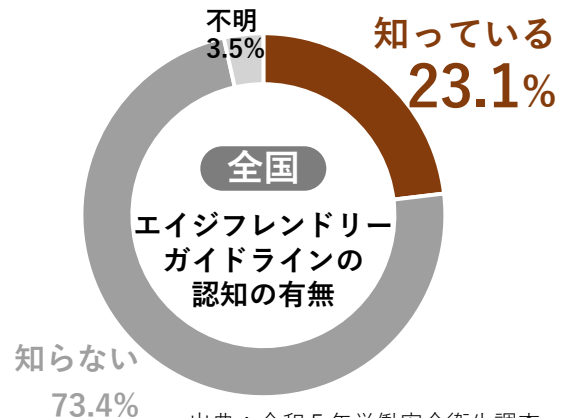
決して高くないエイジフレンドリーガイドラインの認知度

厚生労働省では、高齢労働者の労働災害防止のため、「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」（以下、「エイジフレンドリーガイドライン」という）に基づく取組を進めています。

エイジフレンドリーガイドラインでは①安全衛生管理体制の確立②職場環境の改善③健康や体力の状況の把握④健康や体力の状況に応じた対応⑤安全衛生教育などの内容が定められており、ハード面・ソフト面の双方の対策を行うことを求めています。

また、本件ガイドライン推進のために設けられたエイジフレンドリー補助金では、今年度にはリスクアセスメントで優先順位が高いと判定された措置について高い助成率で助成を行うハード面への効果的な対策の実施を補助するものが新設され、既設のものでは、ソフト面へアプローチを助成するコースもあります。（詳細は次頁）

本件ガイドラインに沿った高齢労働者の労働災害防止対策の実施とエイジフレンドリー補助金の活用をお願いします。



出典：令和5年労働安全衛生調査